

繁殖力の強い観賞用水草－ホテイアオイ・ボタンウキクサ等

【問題種】

ホテイアオイ、ボタンウキクサ

【生態】

○ホテイアオイ

南アメリカ原産の多年草。浮葉植物。水深が1 m以上のところでは草丈は30～60cm、栄養の良い状態では1.5m以上となる。葉柄は中ほどがふくれて浮き袋の役目をしている。夏季に淡紫色の花をつける。



左：ため池に広がるホテイアオイ
上：ホテイアオイの花

○ボタンウキクサ

(別名ウォーターレタス)

熱帯～亜熱帯地域に広く分布する多年草。浮葉植物。

5～10cmの大きさと、ロゼット状に葉を広げて水面に浮遊する。

暖かくなると、走出枝を出し、子株を増やし栄養繁殖を行う。

寒さに弱く、沖縄県以外の日本では冬を越せないが、翌春種子から発芽し成長する。



水面に広がるボタンウキクサ

【問題点】

在来の水生植物の生育を強く阻害する。大量増殖後の処理に費用がかかる。

【侵入経緯と県下の分布状況】

○ホテイアオイ

明治中期に観賞用として導入された。各地で野生化し、異常な繁殖をしている。

○ボタンウキクサ

鑑賞植物として大正末から昭和初期にかけて沖縄県に入っていたという記録がある。

ここ数年、西日本を中心に各地で野生化し、異常な繁殖をしている。

【加害状況】

○灌漑用水路、排水路での水の流れをせき止める。

○漁業に影響を及ぼす。

○舟の運航に影響を及ぼす。

○汚臭、悪臭の根源となる。

○冬季に植物体の腐敗により水質汚濁を引き起こす。

○美観を阻害する。

【対策事例】

○ホテイアオイ駆除の事例－徳島県旧吉野川、今切川

ホテイアオイの繁茂により河川環境の変化、樋門ゲートの不完全閉塞、流水阻害、船の航行障害などの問題が発生していたため作業船とバックホウを使用し、ホテイアオイを除去した。駆除したホテイアオイは高水敷にて乾燥後、一般廃棄物として処理された。

実施主体は国土交通省。